

P R E S S R E L E A S E

報道関係者各位

県内学校健診後治療調査（県内小中高・特別支援学校 36%が回答） コロナ禍で子どもの肥満、視力低下、むし歯が増加

協会は2月～3月中旬にかけて、県内全ての小学校、中学校、高等学校、特別支援学校を対象に2020年度学校健診後治療調査を行った。

調査は19年度にも行っており、今回は2回目。学校での健診で要受診とされた子どもの未受診率、新型コロナによる影響事例などを調べた。県内では昨年の回答率7.8%を大きく上回る36.2%、149校から回答があり、この問題への学校側の関心の高さがうかがえた。

■コロナ禍で“受診できない”児童・生徒が増加

前回との調査結果を比較すると、未受診率は全診療科で増えている（前年度比較 表参照）。新型コロナ感染をおそれ、受診控えが生じていること、長期休校の影響で学校健診の時期がずれ、受診する期間が短くなったこと、プール授業中止などの影響で受診勧奨のきっかけが失われたことなどが要因として考えられる。

■未受診の要因は保護者の意識の問題

未受診の要因を問う設問では、「子の健康への理解不足」がトップ。「保護者が共働き」、「保護者が子に無関心」と続いた。自由記入には保護者は仕事、子どもは部活や塾などで多忙であることを指摘する声も多かった。山形県は全ての自治体で中学生まで子どもの医療費が無料だが、高校生まで無料の自治体は6割程度のため、窓口負担が発生する自治体の高校からは、医療費無料ではないことも受診率低下の一因であるとの意見があった。

■コロナ禍による影響事例…「あった」44%

新型コロナ感染拡大による影響事例の有無を問う設問では、「あった」が全体で44%。肥満の増加がトップ、視力低下、保健室登校、むし歯の増加と続いた。「学校再開時に、もともと肥満の児童もさらに肥満度が高くなった。」（小学校）、「昨年度まで視力異常の児童が少なかったが、臨時休校後一気に増加し、眼鏡をかけなければいけない児童が多くなった。」（小学校）、「コロナ感染の不安で外に出られず不登校。登校しぶり傾向児童が今年度は急増した。」（小学校）、「一人で何本もむし歯を持っている児童が増加。」（小学校）などの事例が寄せられた。

■コロナ禍の今こそ、国や自治体、学校、医療者との連携で対策に乗り出すことが必要

健診後、受診できない子どもは家庭に何らかの問題を抱えていることは前回の調査でも明らかとなっており、今回コロナ禍でさらに子どもの健康状態の悪化が顕著になった。受診できない子どもたちは困難を抱えて学習しなければならず、将来の学力格差、健康格差につながることも懸念される。

子どもの健全な発達を保障するために、コロナ禍の今こそ、国や自治体、養護教諭、学校医、学校歯科医との連携を図り、保護者への啓発など対策に乗り出すことが必要である。

以上

山形県保険医協会
理事長 中島幸裕（担当 高橋）
〒990-0043 山形市本町2-1-2
T E L 023-642-2838 F A X 023-642-2839